

虚血性腸炎・広節裂頭条虫の駆除について

平成 24 年 11 月

平成調剤薬局 東長良店 飯田 大作

・虚血性腸炎

腹痛等が原因で大腸内視鏡検査を行った患者でまれに来院される。

大腸の血流障害により大腸粘膜に炎症や潰瘍が発症し、突然の腹痛と下痢・下血を来す。

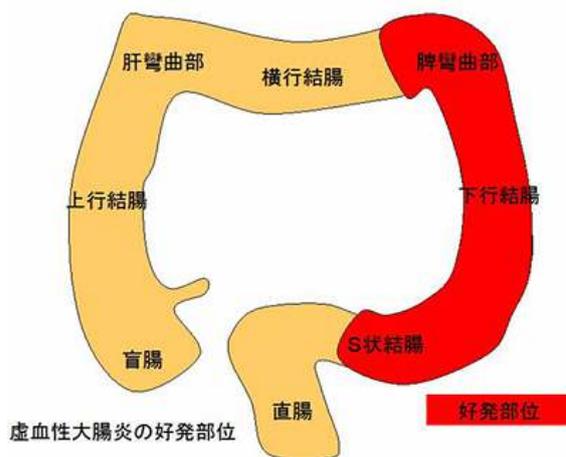
血管の動脈硬化、血栓・塞栓や、慢性便秘・浣腸の腸管内圧が原因となる。

好発部位は脾彎曲部、下行結腸、S状結腸。

重症度は一過性、狭窄型、壊死型の3つに分類。

治療方法は、絶食。腸管を休めること。栄養剤か点滴による治療が基本。それか入院。

ラコールが7日分～10日分ほど出ることが多い。



(日本消化器病学会ホームページより)

・広節裂頭条虫 *Diphyllobothrium latum*, fish tapeworm



(Copyright © JOMF 2012 All rights reserved.)

感染型の幼虫は、サケやマスの類の筋肉に寄生している。予防法は食品の加熱調理である。

生魚を好む民族に寄生する虫で、患者数は日本と北欧が多い。

広節裂頭条虫の駆除についての問い合わせがあったため調べた。

製薬メーカーに確認したところ、

① コンバントリン錠 100mg の適応は、回虫、鉤虫、蟯虫、東洋毛様線虫のみとなり、
条虫である 広節裂頭条虫には効果がないと回答あり。

妊婦への投与は安全性の確立はしていないが、有益性投与となる。

体重 20kg→2 錠、30kg→3 錠、40kg→4 錠、50kg 以上→5 錠を 1 回経口投与で終了。

食事に関係なく投与することができ、下剤を使用する必要はない。

幼虫は口が小さく、薬の粒子径が大きいため十分量摂取されず効果がない場合があるため、
通常、2～3 回投与が行われることが多い。小児にはコンバントリン DS (1 包/10kg)。

2 回目以降の陽性は再感染の疑いあり。家族間での感染しないよう生活環境の改善が重要。

② ビルトリシド錠 600mg に関しては、寄生虫薬物治療のガイドラインに、
広節裂頭条虫の駆除には、保険適応外となるが使われることがある。

本来の適応症は、肝吸虫症、肺吸虫症、横川吸虫症。

妊婦へは投与しないことが望ましいとなっている。

バイエル社のデータでラットによる動物実験で、妊娠中での催奇形性はなかったとのこと。

(ただし、肺吸血症の適応では、妊娠 4 カ月未満の妊婦への投与は避ける。)

条虫の中でも、広節裂頭条虫 (コセツリツトウジ ヨウチュウ、ハブヒロミジ サダ等)、無鉤条虫 (ムコウジ ヨウチュウ、カギナジサダ等)、有鉤条虫 (ウコウジ ヨウチュウ、カギサダ等) 様々な種類があるが、

有鉤条虫の場合、ビルトリシド投与により死滅した虫体が原因で回復困難な病変 (失語症、片麻痺、脳梗塞、眼障害等) を引き起こす可能性があります。

広節裂頭条虫や無鉤条虫の場合は適応外となるが、禁忌にはならないとのこと。

ビルトリシド錠を 20mg/kg を 1 回経口投与。2 時間後に下剤で一気に排便。

体重(kg)	錠数	体重(kg)	錠数
20～26	0.75 錠	57～63	2 錠
27～33	1 錠	64～70	2.25 錠
34～41	1.25 錠	71～78	2.5 錠
42～48	1.5 錠	79～86	2.75 錠
49～56	1.75 錠		

また、保険適応外となりますが、造影剤のガストログラフィンによる駆虫方法もある。

妊娠中となると X 線照射をするため、やはり危険を有益性が上回るときのみの使用となる。